

養手貞夫先生（大町中）の「極意」伝承道場訪問

1月19日（月）



校内すべての先生方と共有できるように指導観を明文化！
観て、聴いて、やってみよう



**「支援の量は平等ではなく、手ごたえの量の平等」
これが教師のあり方である！**

養手先生の道場は、Key Wordとして「支援の量は平等ではなく、手ごたえの量の平等」を教えてくださいました。AIは「この言葉は『平等』と『公平』の違いについて述べているのですね。支援の「量」をみんなに同じだけ与えるのが「平等」ですが、本当に大切なのは、それぞれの人（子ども）が「手ごたえ」を感じられるように、必要な分だけ支援を調整する「公平」な考え方だと言えますね」と解説しています。あと、自己効力感についても話していただきました。これらのことを学校としてすべての先生方の指導観として共有できるように明文化した「R8大町中（通常学級を含む）特別支援教育を推進するための指針（案）」を見せていただきました。受講の先生方から養手先生の話を受けて、「子どもも教師もSOSを出してもいい、誰かが助けてくれる」教師の子どもへの言葉がけについてなどを話していただきました。

教師なら「子ども個々を愛せるmind、子ども個々に敬意を表せるmind」をすべての先生方がもっているはずですが、様々なことで忘れがちになります。教師としての芯を思い出させてくれる養手先生の道場でした。